

銚子市の経済

銚子市は、千葉県の北東部に位置し、全国屈指の水揚量を誇る漁業や温暖な気候を活かした農業、豊富な魚を活用した水産加工業や地域の気候風土を活かした醤油醸造業、そして、犬吠埼灯台や銚子電鉄など、魅力的な観光資源を活かした観光業が盛んです。

ここで、千葉県東総地域の3市(旭市、香取市、銚子市)における産業分類別の従業者数を比較したグラフを見てみましょう。

各市の従業者数の合計は、旭市が27,417人、香取市が28,617人、銚子市が29,271人となっています。一方、人口(平成27年国勢調査結果)は、旭市が66,586人、香取市が77,499人、銚子市が64,415人であり、銚子市は人口が3市の中で一番少ないにもかかわらず、多くの雇用が生み出されていることが分かります。

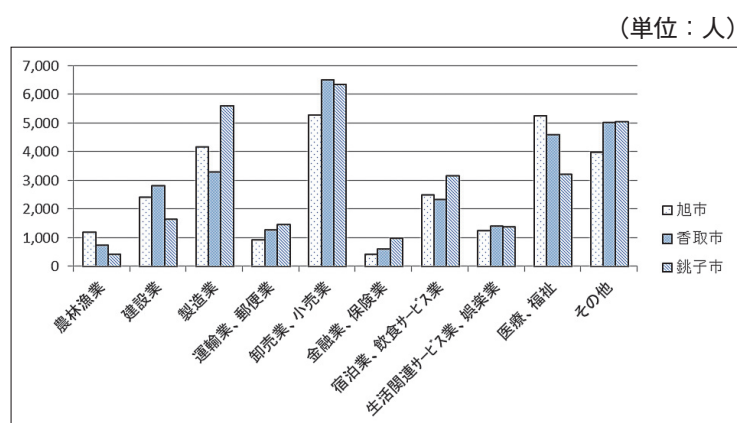


図1 産業(大分類別)従業者数の比較
(出典 平成26年経済センサス活動調査)

この項目ではまず、これらの雇用がどのように生み出されているのか、産業別に概観したいと思います。

1 銚子の漁業・農業

銚子沖には水深200mの大陸棚が広がり、北からの親潮(寒流)、南からの黒潮(暖流)が交錯し、また、利根川からの有機物を含んだ真水の流入等により全国屈指の好漁場が形成されているため漁業が基幹産業となっています。銚子沖は魚種も豊富で、イワシ、サバ、サンマの大衆魚を中心にマグロ類やカツオ、タイ、ヒラメなどが市場に並びます。生鮮魚は首都圏に多く出荷されるほか、干物や缶詰などの水産食品として加工されています。

また、銚子では夏涼しく冬暖かい海洋性気候を活かした各種野菜の生産が盛んで、県内トップクラスの産出額を誇っています。特に、キャベツは日本を代表する産地のひとつです。銚子におけるキャベツ作りは昭和30年(1955)頃、高神地区で始まりましたが、交通機関の発達により首都圏に生鮮野菜の出荷が可能となったことにより大きく発展しました。

2 銚子の製造業

銚子の製造業の大きな特徴は、食料品を製造する事業の割合が多いことです(図2)。

銚子漁港で水揚げされた生鮮魚などは、市内の多くの事業所等で干物や缶詰などの食料品に加工製造されています。また、江戸時代からの長い歴史と伝統のある醤油工場もあり、銚子の名産といえる産業が中心となっています。

千葉県や全国と比べても銚子の製造業の従事者数は高い割合は占めています。

以上、概観してきた銚子の産業構造は、日本経済の好況・不況の影響を直ちに受ける度合いが少ない安定成長型である一方、生産性の低さが課題として指摘されてきました。

図3のグラフで分かるように、銚子市の市民所得の伸び率は県民所得及び国民所得よりも低い水準にあります。この原因としては、銚子市の産業は堅実に安定成長を続けている一方、国・県レベルでは産業構造の転換によって所得水準が急激に伸び、格差が開いたことが考えられます。

このような地域格差を解消するため、これまで様々な企業誘致等の構想が提唱されましたが、様々な社会的条件から実現せずに今日まで至っています。

また、日本では2008年をピークに人口減少に突入している中で、銚子市においても近年人口減少と高齢化が加速度的に進行し、年々、産業従業者数や事業所数は減少傾向にあります。雇用の場が失われれば人口は増えません。人口減少に歯止めをかけるため、農業・漁業の生産者が加工食品の製造・販売に取り組む「6次産業化」など、より付加価値の高い商品・サービスを開発・販売しようとする動きが少しずつ始まっています。

今後は、若い皆さんが柔軟な発想と行動力で新しいビジネスを興し、地域経済を活性化することが期待されます。

(単位：万円)

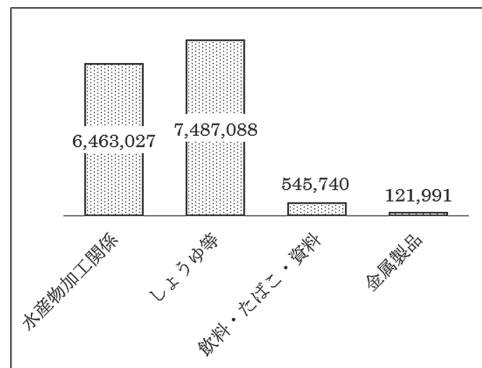


図2 銚子の工業出荷額
(出典 2016銚子市勢のしおり)

(単位：万円)

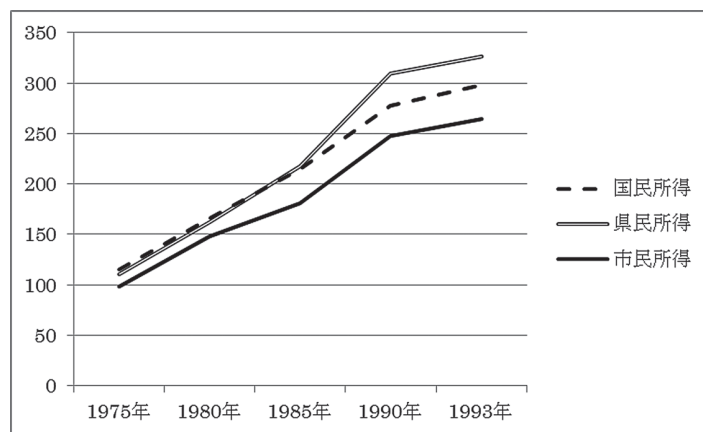


図3 1人当たり国民所得・県民所得・市民所得の推移
(出典 続 銚子市史IV)